

健康プロデュース学部の将来に向けて

新 原 寿 志

健康鍼灸学科 学科長

ここに「健康プロデュース学部雑誌 15号」を刊行いたします。健康プロデュース学部雑誌は、紀要であり年一回の定期的刊行物です。紀要は一般の学術雑誌とは異なり、論文、報告、研究ノートなど幅広い内容が掲載されます。学部の各教員の教育や研究などの様々な活動について、相互に理解を深めていただければ幸いです。

今回、巻頭言を担当させていただくにあたり、改めて「健康プロデュース学部」とそのキーワードである「健康」について考えてみました。「健康」と言えば、世界保健機関（WHO）の定義が良く知られています。以下に、公益社団法人 日本 WHO 協会による WHO 憲章前文（仮訳）を転載します。

「この憲章の当事国は、国際連合憲章に従い、次の諸原則が全ての人々の幸福と平和な関係と安全保障の基礎であることを宣言します。健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての基本的な人権のひとつです。世界中すべての人々が健康であることは、平和と安全を達成するための基礎であり、その成否は、個人と国家の全面的な協力が得られるかどうかにかかっています。ひとつの国で健康の増進と保護を達成することができれば、その国のみならず世界全体にとっても有意義なことです。健康増進や感染症対策の進み具合が国によって異なると、すべての国に共通して危険が及ぶことになります。子供の健やかな成長は、基本的に大切なことです。そして、変化の激しい種々の環境に順応しながら生きていける力を身につけることが、この成長のために不可欠です。健康を完全に達成するためには、医学、心理学や関連する学問の恩恵をすべての人々に広げることが不可欠です。一般の市民が確かな見解をもって積極的に協力することは、人々の健康を向上させていくうえで最も重要なことです。各国政府には自国民の健康に対する責任があり、その責任を果たすためには、十分な健康対策と社会的施策を行わなければなりません。これらの原則を受け入れ、すべての人々の健康を増進し保護するため互いに他の国々と協力する目的で、締約国はこの憲章に同意し、国際連合憲章第 57 条の条項の範囲内の専門機関として、ここに世界保健機関を設立します。」(<http://www.japan-who.or.jp/commodity/index.html>)

この前文を読みますと、健康プロデュース学部は正に WHO の理念を達成するべく作られた学部といっても過言ではないでしょう。前文にある「病気」「肉体的」「精神的」「子供の健やかな成長」「医学」「心理学」「他の国々と協力」は、本学部の 5 学科、つまり心身マネジメント学科、健康栄養学科、健康こども学科、健康鍼灸学科、健康柔道学科の教育や研究さらには課外活動（各種ボランティア、鍼灸接骨院等）とも密接に関係します。また、「医学、心理学や関連する学問の恩恵をすべての人々に広げることが不可欠」は、本学の教育理念の一つである「地域貢献」にも合致します。

前文にあるように「健康」とは「基本的人権のひとつ」でかつ「平和と安全を達成するための基礎」とあり、かつ「各国政府には自国民の健康に対する責任」があると言っています。本学部の様々な活動は政府のそれを代行しているとも言え、人々の「平和と安全」に貢献していると言えるでしょう。これは本学部がもっと誇ってよいことだと思います。

「健康」の理念とその意義を念頭におき、特性や専門性の異なる本学部の5学科が各々独自性をもって活動することにより、相補的に広く国民の健康に貢献できると考えます。そのような活動を積み重ね、これを記録し、さらなる教育や研究あるいは社会貢献に繋げることができれば、健康プロデュース雑誌の価値はさらに高まるように思います。学部教員の積極的な投稿が期待されます。

最後に、健康プロデュース学部に対する私見を述べさせていただきます。将来、大学附属の「ここは鍼灸接骨院」を中心に、地域住民のための「健康センター」を立上げ、年齢に応じた栄養指導、体力維持・増進、疾病予防・治療に関するサービスを提供できればと考えます。本学の理念である地域貢献のみならず、このセンターでデータを集積すれば研究活動にも繋がりますし、また、このようなセンターを県下に展開することができれば、健康プロデュース学部の卒業生の活躍の場にもなり、ひいては本学全体の発展にも繋がるものと考えます。とはいえ、実現には学部全体のコンセンサスが必要ですし、予算も含めさまざまな課題があるでしょう。そもそも実現すること自体が不可能かも知れません。しかし、長期的なビジョンや目標を持って活動することで、これまでにない何か新しいものを生み出すことができるのではないかと考えます。学科を超え教員のみならず学生を巻き込んで、健康プロデュース学部の新たな展開を創造することは大変ワクワクします。このような学びは健康プロデュース学部の強みですし、大学での学びの醍醐味のようにも思います。

コロナで始まった令和2年、この原稿を書き上げている9月末日の段階でも残念ながら終息していません。コロナが世界経済に与える影響は計り知れず、将来に対する悲観的なムードが漂っています。しかし、このような時期だからこそ、将来に向けて様々なことを前向きに考え、しっかりと準備することがとても大切だと思います。コロナの一刻も早い終息、健康プロデュース学部のさらなる発展、そして何より本学学生・卒業生の明るい未来を願ってやみません。